

10/31
総選挙

投票に行こう! 推薦候補の全員当選で、政権交代を実現しよう!

ふれあい情報

2021年 10月18日(月) 第335号

■発行 日本退職者連合
■発行人 野田那智子
■連絡先 〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL>03-5295-0507 <FAX> 03-5295-0541 <e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

第2回幹事会

選挙区で一人でも多くの当選者を!

現退一致の取り組みを! - 人見会長 -

10月13日、退職者連合は第2回の幹事会を開催しました。これまでの取り組み報告が行われ、院内集会、学習会など今後の方針が確認されました。また連合派遣の役員および自動車総連退職者会の幹事に交代がありました。

人見会長 あいさつ



10月4日に岸田さんが百代目の首相になりました。明日解散、10月

31日が投票日です。しかし自民党は何も変わっていないと感じます。AAAというのは株式投資では優良という指標ですが、安倍、麻生、甘利がバックについて政策を進めている。森友も加計も金融所得課税も、発言のブレ幅がひどい。これからも国民の期待を裏切り続けるだろうと思います。

日本社会の高齢化が今後進む中で、社会保障の負



今回の幹事会も Web を併用して行われました

担と給付の見直しは避けられないと思います。財政再建は必要ですが、高齢者への社会保障費が抑制されることになると、それはまた問題です。経済を回す上で、老後の不安があれば財布のひもは固くなります。それは、現在の政治に対する不

安でもあります。私たちが安心できる政策を実現してほしい。

連合推薦候補の必勝をめざし、選挙区でも、一人でも多く当選者を出せるよう、現退一致で取り組みを進めたいと思います。

ジェンダー平等委員会からの報告 本村常任幹事

内閣府への要請では、アンコンシヤス・バイアスが単に意識の問題ではなく、社会構造の中にあるという認識がないと感じました。ジェンダー平等アンケートを実施しています。ご協力をお願いします。

組織委員会からの報告 草野副事務局長

第2次組織拡大計画の策定を始めています。現役との協力を重視しつつ各組織の実態も踏まえ、2年間のアクションプランを重ねて6~8年程度の計画を検討しています。

新役員の皆様



副会長 山根木晴久さん (連合副事務局長)

新体制になり、芳野新会長は「すべての課題の真ん中にジェンダーを」「発信力の強化」「底辺の底上げ」を課題として挙げています。人間が中心になる社会を作っていきます。総選挙では連合推薦候補へのご支持をぜひよろしくお願いします。



常任幹事 宮腰雅仁さん (連合組織企画局長)

8月に連合に来たばかりです。組織拡大でもご協力できればと思っています。



幹事 金持史宣さん (自動車総連 退職者会)

9月の大会で組織局長になりました。どうぞよろしくお願いたします。

フロックからの報告

北陸フロック

コロナ禍で活動は縮小気味。石川では福祉ボランティア活動を、新潟は労協協とリンクしながら活動している。富山のパークゴルフは地域は実施、県大会は中止になった。コロナ対策の福祉セミナーを実施した。

近畿フロック

11月30日に総会を開催。6府県すべてから女性の幹事を選ぶことができた。

北海道フロック

北海道高齢者の集いを中止せざるを得なかった。女性役員は何とか続けて出すことができた。10月26日に定期総会を予定していたが、総選挙の関係で延期した。

四国フロック

コロナ禍でまだ一度も集まれていない。香川は10月26日に総会・高齢者集会をやる予定。四国フロックの活動も再開していきたい。

会場での発言から

北岡幹事(総評退職者の会)

来年の次世代継承委員会の学習会の内容は幹事会でも聞かせてもらえるのか。

(答弁)

幹事会で議論する機会を設け、意思統一を図った上で総会に報告する。

柴山幹事(農水退)

今後、退職年齢が上がっていく。公務は再来年の4月から上がり始め、最終的には65歳になる。民間法制はもう70歳まで努力義務。現在でも、60歳定年後の再任用期間は組合員になれ、退職者の扱いもできる。この期間は様々な課題があるので整理が必要。

(答弁)

確かに組織拡大が難しい要因の一つに定年延長がある。今後の経過も見ながら議論を進めたい。

林幹事(近畿フロック)

退職者には「引退後はもうゆっくりしたい」という意

識がある。困難な課題だが、これを何とかしないと退職者はじり貧になる。

(答弁)

退職者会の機能は、運動にとどまらない。幅広い活動を考えたい。

操谷幹事(基幹労連シニア)

定年延長で退職者会に入る人が減るのは事実だが、その分は現役の組織化でグリップするわけで、悪いことではない。65歳以上の退職者会はどうあるべきか、という議論をした方がよい。

(答弁)

その点も含めて議論して、来年の総会に提案したい。

<社会保障学習会のご案内>

- 日時 11月22日(月)
13時30分~15時
- 場所 連合会館3階AB会議室
- 内容 「2040年の社会保障の姿」
- 講師 香取照幸さん(上智大学)
- 当日はライブ配信も行います

連合本部退職者の会

「連合トップ等の話を聞く会」を開催

連合本部退職者の会は、9月30日(木)「連合トップ等の話を聞く会」を開き、神津里季生(前)連合会長から「連合結成30年の評価と安心社会実現に向けた課題」をテーマに、新年度運動方針(案)に沿ってお話を伺った。

神津(前)会長は、「事務局長2年、会長6年の計8年間に様々なことがあった」として、次のように話された。

連合が取り組んできた「安心の5つの橋」が実現していれば、コロナ禍でもアタフタしないで済んだ。コロナ禍では不安定雇用や「曖昧な雇用」など多くの問題が顕在化した。取り残した課題には、脅かされる雇用、脆弱な社会的セーフティネットなどがある。労働運動は「対面が重要」と改めて実感した。

非正規労働者が4割まで高まっている。新たな運動スタイルを確立し、連合が「必ずそばにいる存在」になる必要がある。連合結成時の80万人が一時は660万人まで減少した。連合本部・産別・地方連合の組織拡大で現



神津会長を囲んで 連合本部退職者会のみなさん

在は700万人まで回復したが、一層の組織拡大が必要。ジェンダー平等の社会づくりは、次の芳野会長に進めてもらいたい。政治活動では、野党のバラバラ感があるが、一定の塊ができる環境整備を行ってきた。

参加者からは、「岸田自民党総裁は『分配』を重視しているが、どう見るか」「コロナ禍に対応した新たなセーフティネットを提案すべき」「立憲民主党と国民民主党は何故一緒にならないのか」「会長は連合で何をしたかったのか、8年間の成果と残された課題は何か」等多くの意見が出され、熱心な意見交換が行われた。

連合本部退職者の会 事務局次長 小島 茂

(連合本部退職者の会よりご寄稿いただきました)